

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530501

研究課題名（和文）ロバート・K・マーソンの理論形成過程——未公刊資料の発掘・解析——

研究課題名（英文）Theory Building Process of Robert K. Merton——Analysis of Unpublished Papers——

研究代表者

高城 和義（TAKAGI KAZUYOSHI）

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：00085953

研究成果の概要（和文）：本研究は、現代アメリカを代表する社会学理論家ロバート・K・マーソンが遺した膨大な未公刊資料を発掘・解析し、マーソンの理論形成過程を、彼をめぐる知的交流と密接に関連させつつ、解明しようとするものであった。そのため本研究代表者は、平成21年から3年間毎夏コロンビア大学を訪れ、マーソンの未公刊資料の発掘・解析に努めてきた。その結果、マーソンは、ポール・ラザースフェルド、バーナード・バーバー、ジョン・リレイなどのコロンビア社会学界のみならず、ダニエル・ベル、モイニハン、セルズニック、ルイス・コーザーら、多数のニューヨーク知識人の知的交流の軸となる位置に立っていた理論家であったことを確認することができた。マーソンは多数の社会学者の論文や著作を編集し、非常に広範な知的ネットワークを築いてきた人物であった。ライト・ミルズとドイツから亡命してきたハンス・ガースとを結びつけたのもマーソンであった。

さらに本年度は、マーソンが、上院議員としてアメリカの医療改革に尽力してきたエドワード・ケネディのブレインとして、アメリカの医療改革に尽力していたことをも知ることができた。さらにマーソンらが、1950年代以降のアメリカにおける黒人解放のために尽力していたことも解明することができた。

以上のような研究史上まだ知られていないマーソンの知的ネットワークとその現実的意味を解明する手がかりを発見することができたという点で、本研究は、非常に重要な成果を得ることができたといえる。このような作業をさらにつづけるならば、アメリカ社会学理論形成過程について、その社会的文脈を解明するとともに、新たな「知の社会史」上の重要な貢献を達成することができるであろう。

本研究は以上のような重要な可能性を切り開くことができるという確信を与えるものとなっている。

研究成果の概要（英文）：This research analyze the unpublished papers of Robert K. Merton who is the leading theorist of American contemporary theorist, by these analysis to make clear the theory building process of Robert K. Merton relating his intellectual network. For this sake the representative of this research visited the Columbia University every summer, and analyzed the unpublished Robert K. Merton papers. By these researches, that Robert K. Merton stand at the most important core position of New York intellectuals such as Paul Lazarsfeld, Barnard Barber, John Riley, Daniel Bell, Moynihan, Selznick, Louis Coser so on, make clear concretely. Robert K. Merton. Merton edited many monographies and books of so many sociologists and made the great intellectual networks. Merton combined Wright Mills with Hans Girth who was German refgee scholar and recommended to write the book on Max Weber.

In addition on this year I xn make clear Robert.K Merton become the brain of EdwardKennedy, worked hard for rhw reforms of American Medical System. Also we can Know Merton worked hard for the emancipation of Black Peoples on 1950s

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：ロバート・K・マートン 「知の社会史」 ニューヨーク知識人 アメリカ社会学理論形成史

1. 研究開始当初の背景

2002年、ロバート・K・マートンが亡くなった。そのあとには膨大な未公開資料が遺された。本研究者はこれまで、タルコット・パーソンズの未公開資料の解読に長年取り組んできた。この研究の経験を生かして、膨大なマートンの未公開資料の解析に取り組もうと考えた。

2. 研究の目的

アメリカ社会学者を代表するマートンの知的ネットワークを具体的に解析しつつ、マートンの理論形勢過程を、ひいてはアメリカ社会学の形成過程を具体的に解明する。

3. 研究の方法

コロンビア大学でようやく整理が終わったマートン。コレクションと向き合い、これを解析する。これらの資料をコロンビア社会学派の多くの研究者の書簡等とつぎあわせつつ、知的コミュニケーションのあり方を、具体的に解明する。

4. 研究成果

以上の作業の結果、マートンがニューヨーク知識人のまさしく中軸となる位置に立っていた組織者であったこと、マートンを中心とした知的ネットワークが、アメリカの現実政治に大きな影響を与えてきたことを、具体的に解明することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

①高城和義、「マートン文書の『知の社会史』上の意義」、『帝京大学社会学研究』24号、2011年3月

②高城和義、「グローバル化時代のアメリカにおける宗教と政治」、『社会学研究』2011年7月

[学会発表] (計1件)

高城和義、「ニューヨークにおけるモスク建設問題」、東北社会学研究会、2011年11月15日、東北大学(仙台市)

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高城和義 (TAKAGI KAZUYOSHI)

帝京大学・文学部・教授

研究者番号：00085953

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者なし